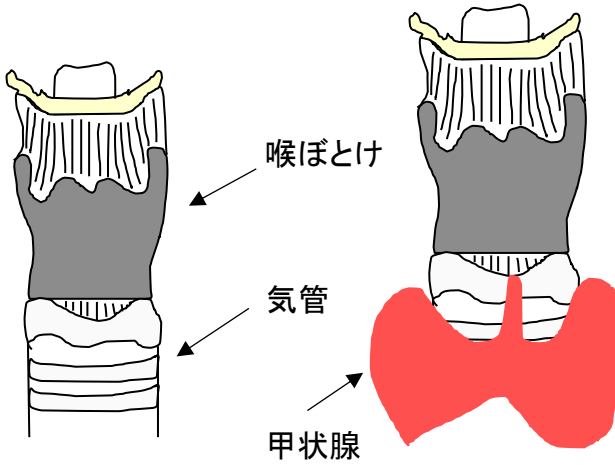


# 甲状腺新聞

甲状腺の場所: 喉ぼとけの下にあります。



甲状腺の働き: 子供のころは成長、発達、身体の代謝を調節、大人になると、主に身体の代謝を調節します。

甲状腺ホルモンは、脳、心臓、消化管、骨格筋、脂肪細胞、脂質、骨に作用します。

甲状腺の検査: 採血で甲状腺の機能を測定し、バセドウ病や橋本病が隠れていないかどうかわかります。

甲状腺エコーは、甲状腺の大きさ、内部の血流や腫瘍の評価、リンパ節腫大などが分かります。

採血では、甲状腺刺激ホルモン(TSH)や甲状腺ホルモン(F.T4)、バセドウ病や橋本病の抗体を測定します。

甲状腺ホルモンが多すぎると、脈が速くなるため動悸が起こり、体重が減少し、下痢や性格の変化でイライラをきたしやすくなります。眼が突出する事もあります。抗体が原因で甲状腺ホルモンが多くなる病気をバセドウ病と言います。バセドウさんとグレイブスさんが発見したためです。

甲状腺ホルモンが少なすぎると、脈が遅くなり、体重が増加し、便秘や性格の変化でボーっとしやすくなります。全身がむくむことがあります。抗体が原因で甲状腺ホルモンが少なくなる病気を橋本病と言います。九州大学の橋本策先生が発見されました。



橋本策先生



Carl von Basedow



Robert James Graves  
(1796~1853)